

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<input type="checkbox"/>	その人らしいをモットゥに今後も続けて取り組んでいきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<input type="checkbox"/>	職員が一丸となって入居者と共に生活を楽しみ助け合って行く
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	<input type="checkbox"/>	今後も地域や家族、入居者、職員全員で取り組んで行きよりよい施設運営を行っていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	<input type="checkbox"/>	今後も協力をしたり、してもらったり近所ならではの付き合いを行って行きたいと思っており今後も取り組んで行きたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<input type="checkbox"/>	地域あつての施設でありたいと思っているので今後も続けて取り組んで行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護者教室を地元の公民館を使用し行い、地域の方からの意見を聞いたり、一人暮らしの方の話し相手を行ったりしている。	○	今は年に一回だけの介護者教室なので、他の仕方での高齢者と話し合いが出来ればと思っている。例えば老人クラブ等の席での会話が出来るとは思っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はミーティングの折を利用したり、外部評価の折に職員全員で検討している。	○	外部評価での改善の指導をきっかけに職員全員で検討する事は入居者の方が心地よい環境の中で生活できる基本と考え今後も検討し改善して行きたいと思っている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では当施設のサービスを理解して頂く為に、家族会と一緒に会議を開催して、意見をもらいサービスの向上に努めている。	○	運営推進会議での意見は重視し職員全員に報告し検討を行い改善できる所は随時改善しサービスの向上に努めたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外での交流として、夏祭りの参加を行ってもらったり、家族会への参加をお願いし当施設の運営に対しての意見をもらい質の向上に努めている。	○	市町村担当者によっては、参加を勧めても参加されない方もおられる為に、違う方向での交流を図りたいと思っている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在の所必要な方はおられないが、成年後見制度の説明会には必ず参加し、職員全員が理解できるように交代で参加している。	○	今後も参加し職員全員の理解ができるようにしたい、又必要な方がいたら活用したいと思う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為の研修の参加はもちろんの事、ミーティングの折にふれ虐待がないように心がけている。	○	以前は家族での虐待があり、帰荘されてからの本人の心情が不安定な時期もあったが、現在ではなくなり職員全員で虐待がないように話し合いを行って行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び契約解除の場合は、次のサービスや施設への移動の際、の説明を行い家族や利用者が安心して生活できるように、元担当のケアマネを呼び一緒に説明をしている。	○ 今後も入居、退居の場合の説明は十分に行い不安のないように援助して行きたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に不満、意見を述べられその都度解決できる事から解決し、本人の気持ちを優先に行い、職員に言えない時は家族の協力を得て聞いてもらい、できる範囲で本人が望むようにしている。	○ 今後も意見、不満、苦情ができるだけでないように改善して行きたいと思っている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理は全て家族が行っており、健康状態に異常があった場合はその日に報告し、主治医からの説明も行ってもらう場合もある。又、毎月の請求書配布の折に、健康状態、毎日の暮らし等を書面にて配布している。	○ 大切な家族を預かっているので、身体的、精神的異常の際は家族への連絡は小まめに行なっていく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の折に意見、不満、苦情を受けようとしているが、皆さんの手前中々発言してもらえない為に、意見箱を設置し家族からの苦情等を入れてもらうようにしている。又、職員に言いづらい場合は玄関に掲示している方への相談を勧めている。	○ 今後も意見や苦情、不満が出ても気軽に相談できるように工夫したいと思っている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで職員の意見を聞き、一緒に現場に入り反映するように努力している。	○ 入居者だけではなく、職員の意見も重要な施設の運営方法だと思っているので、質の向上の為にも反映して行きたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態により、職員の確保に努めると共に毎月のミーティングの折に要望の休暇等の調整を行い、職員の確保に努めている。	○ 今後も調整を行い利用者、家族への支障がないように努めたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できるだけ職員の入れ替わりがないように心がけている。又職員が入替わる際は、半月～一ヶ月の間同時出勤を行ってもらい交代するようにしている。	○ 職員の都合で退職する人は止められないが、利用者の方々にダメージがないように心がけたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修は交代で参加し、参加した職員がミーティングの折に報告する。 又、施設内での研修を担当で行っている。</p>	○	<p>職員の育成も大事な業務で、他の施設に移動した際恥をかかないように研修を受けさせ、職員の自信がもてるように育成して行きたいと思っている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近くにある宅老所との交流や他のグループホームとの交流を年に数回行い、当施設との相違を勉強し、ネットワークづくりや勉強会には、北部ブロックで行っている会議や佐賀記念病院が開催する会議に職員も出席している。 他では出来ないサービスと質の向上に向けて勉強会を行うように努力している。</p>	○	<p>管理者、職員共に質の向上に向けて勉強する事は、施設のサービスにも繋がると思うので今後も続けて行きたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員のストレスがないように、毎月一回職員からの意見や不満を聞き職員全員で検討している。 又、その場で言えない場合は個人的に面談している。</p>	○	<p>職員のストレスがあると利用者の方達にもより良いサービスが出来ないと思うので、今後もストレスがないように心がけて行きたいと思う。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の実績や努力があった場合は、その場又はミーティングの折に皆に報告し誉めたり、良いやり方ではないにしても金銭的にアップを図っている。</p>	○	<p>各自が向上心を持って働けるように職員の意見を聞きたいと思う。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>個人的に相談があった場合は個人的に相談にのり、全体での相談には皆さんと一緒に考え改善している。</p>	○	<p>いつでも相談しやすい環境を常に持つように心がけたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族からの相談にはいつでも相手できるように心がけ、家族会等の折に相談された場合は、家族会の中で決定している。 又、電話での相談も受けている。</p>	○	<p>できる範囲で相談に乗り、不安がないように電話での対応も今後共続けて行きたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々相談で他のサービスを利用したい方には、そのサービスがどのように運営されているか等できる範囲詳しく説明し、納得されるまで話し合いをおこなっている。又、当施設に入居された場合でも他のサービス等必要があれば説明している。	○	サービスを知らない方が多いと思うので、知っている範囲でも説明をして安心してサービスを受けてもらうように援助して行きたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設に入居される場合は殆どの場合が、部屋が空いているので体験入居を一日から二日利用してもらい、入居を決定してもらい場合があり、その際の費用は食事代のみ徴収している。又は何度か家族と入居者が来荘され日中一緒に過ごす時間の提供を行っている。	○	今後も本人、家族共に納得した上での入居をお願いしたいとおもうので、出きる範囲で行いたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の方達と一緒に過ごす事により、入居者の喜怒哀楽を学び共有しており、お互いに信頼を築いている。	○	入居者に対して愛情をもって接する事は、人間として大事な役割だと思う、入居者の方達に学び支える力を養って行きたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員間で家族の悩みや苦しみを共に考え、本人を支えるように努力している。	○	特に家族の方が中々面会に来られない方達の悩みは、本人が安心して生活しているか、淋しい思いをしていないか等の相談をされる際、実際に行っている自宅訪問し様、お墓参り等一緒に行う事を説明する。又お盆、お正月に外泊できない方に対しては職員がつきっきりで外出したり、家族、本人の精神的ホローを行う。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	特に嫁さんとの折り合いが悪く入居された方もおられ、入居し離れる事で嫁、姑の中が良くなった例が多く、自宅での生活を続けるよりも離れる事により関係が良くなっている。	○	嫁、姑だけではなく親子の関係でも、離れる事でお互いが優しい気持ちをもつ事ができる為、家族の関係がよくなるように援助して行きたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、家族では行く事の出来ない、昔から親しくされている友達、又昔からよく行っていた場所に、ドライブを兼ねて会いに行ったり、知人との再会ができるように支援している。	○	家族の代わりに当施設の職員で、できる範囲今後も行っていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士で気の合わない方もおられ、できるだけ利用者の方が孤立しないように心がけ、他の入居者との関係が保てない方に関しては、職員と一緒に行動してもらっている。現場の雰囲気を勘案して場合によりレクを一緒に行ってもらい、孤立を最小限度にするように行っている。	○	団体生活の中でどうしても馴染めない方も中にはおられ、時間をかけて徐々に馴染んでもらう雰囲気作りを努めて行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても家族からの相談があった場合等は、当施設に来荘してもらい相談にのったりアドバイスを行っている。	○	退所しても入居時の本人の状態や、家族の関わり方についての相談等今後も支援して行きたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人々違った環境で生活されていた為に、希望も違う為に本人が希望する事はできる範囲で実施している。又、実施する前に本人を含め職員間での検討も行っている。	○	その人らしい、を基本にすれば本人の希望を検討していくのは当然の事であるが、困難な問題等は家族、職員と一緒に検討し本人の思いを支援して行きたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にデイサービスを利用された方、又はショートステイを利用されてきた方それぞれですが、デイサービス利用の方は、以前「あの場所がよかった」等の希望があった場合は、他の利用者の方々と一緒に訪れたり、馴染んだ暮らしを再現できる工夫をしている。	○	生活歴や馴染みの暮らしを完全に再現する事はできないまでも、できる範囲で利用者の生活環境に近づくように努力したい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人にできる事を、職員、他の入居者と共に行い、身体的に合った作業等を工夫し、一日の過ごし方に取り入れている。	○	入居者の方が同じ場所で生活していくうえで、一日は長いと思うので、利用者の方ができる事を探し工夫をしながら、一日を過ごしてもらうように努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のミーティングの折に次の月のプラン見直しや、本人の状態に合わせプランの変更を職員、家族と共に話し合い作成している。又、意見等を反映し実際にできるプランを作成すると共に家族からの意見も取り入れている。	○	3ヶ月～6ヶ月の期間での見直しを行っているが、状態が殆ど変化されない方もおられる。家族や職員との意見を総合して今後もプランの作成を行い、簡単でも実際できるプランを立てて行くのが目標である。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その人に応じてプランの変更を職員、家族と相談しながら変更をおこなっているが、時にはこのままのプランでお願いしなすと家族が希望されるケースもある。その場合は現状の説明を行い、家族、職員の意見を取り入れて行っている。	○	面会の少ない家族は、現状を把握できない場合もあり、毎月の文書での報告を詳しく提示する必要がある。家族が安心してプランの見直しを一緒にできる環境を作りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、夜勤者、日勤、訪問看護、主治医、三者同一記録とし、家族が見ても訪問診療や訪問看護の来荘があっている事を把握できるようにし、情報も共有できるようにしている。	○	以前はパソコン入力にしていたが、三者同一記録に変更した事が情報の共有ができて良かった為に、今後も続けたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の要望はできるだけ受け入れ実施している。どうしてもできない場合は家族、職員と家族会の時等に話し合い支援している。	○	本人、家族の要望はできるだけ支援し、困難な要望は話し合いの上行いたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向を反映し、ボランティア、消防、地域の駐在所等への協力をお願いして来荘してもらったり、実際に消防署への訪問をしたりできる範囲での支援を行っている。	○	今後もできるだけ地域の民生委員、ボランティア、教育機関等との連携を取り支援したいと思っている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望により、ケアマネジャー等の来荘をお願いして本人の意向を尊重している。	○	今後もケアマネジャー、サービス事業者との連携を行っていき利用者の意向を尊重して行きたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在必要な方がおられない。	○	今後必要な方がおられたら長期的マネジメントを行って行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を尊重し、かかりつけ医を指定され、訪問診療を行っている主治医に変更される利用者の方もおられ、その場合は主治医と面談を行ってもらい納得してもらっている。	○	本人の気持ちが一番の優先だと思う、しかし家族の希望も踏まえた医療の提供を行うのも大切な支援であり、本人、家族の希望を大切にしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	現状のまま支援して医師との関係を築いていきたい。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	利用者が健康管理で安心して生活できる環境を作るのも施設の運営であり、看護面でのフォローは随時行っていきたい。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	利用者の方が入院すると一番心配される事が、退院できるだろうか、又施設に戻れるだろうかと言う事を言われる、面会の都度話をして安心して治療するように勧めて行きたいと思う。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	終末期を迎える方に関して、今後高齢化により増えて行くと思われる、主治医、家族との連携を常にもち、安心して生活ができるように支援して行きたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	終末期を迎える方が、安心して暮らせる環境を作り、医療、看護、介護の連携を保ち、家族も安心して任せられる場の提供を作っていきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	本人の状態がわからず移設したスタッフが混乱しないように、又本人が嫌な思いをしないようにできるだけの情報提供を行って、本人が安心して行けるようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人のプライバシーには十分気をつけている、記録等の個人情報に関しては情報漏れがないように十分配慮して取り扱っている。	○ 誰でもプライバシーを損ねられたら嫌だと思ふ、細心の注意を払うと共に、個人情報の取り扱いには注意して行きたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望はできるだけ受け入れ、本人に分かるように本人のペースにあわせ説明したり、自分で決めて過ごせるように決定の場作りを行っている。例えば自分の時間、自分の好きな食材選び、献立作りの際の希望食等、決定する場の提供を行っている。	○ 利用者にとって決定する場面は生き生きと表情が変わる、これからも本人ができる決定の場の提供を行って行きたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時としてその日の都合を優先したりしがちであるが、できるだけ本人を優先し希望にそようにしている。	○ 人それぞれペースが違う為に、全員のペースを合わせるのは難しい所があるが、その人々のペースを保ち支援する事を基本にして行きたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その日に着る洋服の選択は本人に、理美容は本人家族の希望の方は来荘の美容師さんに、外出可能な方は行きつけの美容師さんの利用をされている。	○ できるだけいきつけの理美容を利用され、昔からの馴染み関係を作っていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から買い物、配膳、後片付けまで職員と一緒に、昔から食べていた食材を利用し、希望食を取り入れて楽しみをもって食べてもらっている。又、作り方も利用者さんに手伝ってもらいながら一緒に作っている。	○ 昔から作っていた料理は、生き生きとした表情で作られますので、職員が習いながら一緒に作っていき、利用者さんの楽しみを作って行きたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者さんの好みにより、飲み物は自由に購入されており、家族が持って来られたりされる。おやつを選ぶ際も利用者さんが殆ど決定されている。	○ 昔から食べていた食材、おやつを好んで食べられる為に、利用者さん本意で行って行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンは毎日の記録に残し、オムツからはくパンツに、はくパンツから、普通のパンツに徐々に変更している。誘導によりパットやはくパンツの枚数を減らす工夫を行っている。	○	一人々の排泄パターンが違うので記録に残し、ミーティングの折に話し合い徐々に変更して、気持ちよく生活してもらいたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一番風呂に入りたい人、なるだけ遅く入りたい人、午前中に入りたい人等その人に合わせての入浴を行い、できるだけ希望を受け入れるようにしている。	○	風呂は毎日沸いているので希望があれば毎日でも可能で、10:00からの入浴もできるようにしているので、本人の希望をできる範囲受け入れ楽しんで入浴されるように支援したい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、居間にて長く過ごされる人、居室にて休まれる人それぞれですが、本人の希望により実施している。日中でも休みたい方はカーテンで遮光を遮断して、室内の温度調整を行い気持ちよくできる環境を提供している。	○	昼夜逆転のない方は本人の希望により、昼寝やその他の時間帯での休息は取り入れて行きたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の買い物や調理の手伝い、洗濯物たたみ等入居前から行われていた役割や楽しみをできるだけ取り入れている。又、一日の生活の中で変化をもち過ごせるように支援している。	○	日々の暮らしの中で本人が望む役割、楽しみを十分生かし活気ある生活をたのしんでももらいたいと思い今後も続けて行きたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持って買い物できる人にはもってもらい、管理は家族の面会時確認されている。買い物時の表情は施設内で見せる表情とは全く違ったもので、生きがいともなっている。	○	本人の力に応じて金銭管理を行ってもらい、自分で購入する喜びを味わってもらいたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者さんの希望でドライブ等頻回に取り入れたたり、行きたい場所等計画を立てて行ったり、その日の朝に決定して行っている。	○	一日中ホーム内にいる事は退屈だと思うので、できるだけ希望の場所に行き気分転換を図る等の支援を行っている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一年に一回ではあるが家族と一緒に旅行に出掛け、職員と一緒に出掛ける時の表情が全く違うのがよく分かるので、家族の協力を得て実施している。近くへの外出は頻回に行っている。	○	今後も家族との絆を大切に家族と一緒に旅行は実施して行きたいと思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く人はいなくなったが、電話での会話は利用者さんの希望でおこなっている。	○	高齢に伴い字を書くことも大切だが、直接声を聞く喜びは利用者さんにとっても生きがいとも言えるので今後も随時実施していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友達等の訪問は随時受けて自分の居室にて長時間でも会話を楽しまれている。又、来荘の際に居心地よく過ごせるように支援している。	○	家族の面会は多く、現状のまま居心地のよい場所の提供をしたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束は職員全員が理解しており、研修にも参加している。現在まで拘束をした入居者はいない。	○	拘束に関しての研修は今後も職員が交代で参加し、報告を行い当施設での拘束をしないように勧めていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、鍵を掛ける事は全くしていない、急に出入り人は現在2名で所在確認を常にするように心がけている。又、出られても無理に連れ戻すのではなく一緒に話しながら歩く等の対策を取っている。	○	鍵を掛ける事も一つの拘束だと思うので、今後も現状のまま見守りを徹底して支援したい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	急に外に出られる方はもちろんの事、そうでない方の所在確認は常に怠らないように十分注意している。居室で過ごされる方にも時間を見て言葉掛けをおこなう等の支援をしている。	○	利用者様の所在確認は事故を防ぐ事にもなる為に常に見守り、言葉掛けをおこない支援したい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食等の行為がある人の場合は、十分注意して見守りを行っており、危険なものを全てなおすのではなく、その人に応じて防ぐ方法を取っている。例えば包丁なら使用の際の見守り、使用した後の片付けの徹底を行っている。	○	危険ではあるが昔から使用した物を全く触らせないのは本人の能力低下に繋がると思うので、危険がないように見守り支援を行っていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、誤薬には特に注意しその人にあつた取り組みを行うと共に、火災訓練も職員と一緒に日頃から事故防止に努めている。	○	居室に戻ってから一人で菓子等を食べて窒息されるケースもあるので、本人の状態に合わせて家族と相談しながら行って事故防止に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	施設内での応急処置や公での研修を行い熟読してもらい、実際に移設内での実技を行ったり定期的の実施している。	○	事故発生時は誰でも精神的に正常とは行かないので、日頃から練習をして初期対応に努めたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は定期的に行い、地域の協力も得て一緒に訓練をしている。避難場所も予め決めて実施している。	○	地震や火災の訓練は実施しているが、水害の想定での避難訓練は行っていないので今後取り入れたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その人に起こり得るリスクについては、主治医からや管理者の説明を家族に随時行っている。	○	いつ何処で起こるか分からない事で、家族来荘の折、家族会の折には説明をしている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	その日の状態で異常だと思う時は、即座に主治医、家族に連絡し状態報告、指示を仰ぐようにしている。殆どの家族が電話連絡をすれば駆けつけてもらっている。	○	本人の状態報告は介護の上で大事なもので、異常にきざくように常日頃から職員との話し合いを行って対応したい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人々の服薬一覧表を見て対応するようにしており、薬の変更があった場合は申し送り帳で把握している。	○	誤薬がないように職員が全員の服薬を把握しているのは当然の行為なので、薬が変更になるたびに申し送りを十分行っていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	高齢者には便秘の方が多く、食材での工夫や日中の運動を行えるだけ薬を使用しないように心がけているが、服薬での便秘が必要な場合は、主治医の指示の元十分注意して行っている。	○	便秘は食欲にも関係するので、排便のチェック等十分把握して行いたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは実施し、口腔内の異常には歯科医の協力を得ている。	○	毎日の食事をおいしく食べてもらう為にも、口腔ケアの実施は行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分等毎日のチェックを行い、栄養バランスに関しても栄養計算を行い管理している。	○	本人の食べる量もそれぞれに違う為に、足りない分の補足として他の食品で補い栄養のバランス考え管理したい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についての理解を職員全員で行い、感染予防としての熱湯消毒等を行っている。インフルエンザの接種は職員、利用者全員が受けるようにしている。	○	感染症の把握は常に行いたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理場の消毒はその日の終わりに熱湯消毒をしたり、新鮮な食品を毎日購入し食べてもらっている。	○	毎日の食材は入居者の方と一緒に購入し新鮮な物を提供していきたいと思っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家族や近所の方達が寄りやすく、話やすい環境をつくるように心がけている。玄関の鍵はもちろんの事、建物周辺の入りやすい工夫を行っている。	○	できるだけ出入りがしやすい環境を作っていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には長椅子を置き利用者の方がゆっくり会話できる場所に、居間、台所は常に誰かがいるように環境整備を行い、ゆっくり過ごす場所となっている。又、浴室の入り口にはのれんを掛け中が見えない工夫を施している。障子等昔から馴染みのある物を使用し、安心して暮らせる場所の提供に心がけている。	○	現在、居間は全員の利用者様の会話の場所であり、一番長く過ごされる場所でもあるので、居心地の良い場所になるよう心がけて環境整備をおこないたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった人が長椅子で会話したり、各居室に気の合った同士で会話を楽しんだり、外にある東屋で過ごされたり、居場所の工夫を行っている。	○	気候がよくなれば、東屋を利用し昼食を取ったり、お茶をしたりの場所として利用し、気分転換を図っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物をできるだけもってきてもらい、使い慣れた物や好みの物を使用してもらっている。 使い慣れた物で居心地よく過ごしてもらっている。	○	中には一人暮らしの人は、お位牌様をもって朝夕にお参りされる方もおられ、自宅に近い環境を提供していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、戸を開け空気の入替え、室内の適温を各居室にある室温計等でチェックし過ごしやすい環境整備に努めている。	○	これからの季節が気温の差が激しいので、室温に十分配慮し過ごしやすい環境を提供していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人々、体力的にも違った利用者に対して、手すり、段差解消を行い安全に生活出来る場所の提供に努めている。 入浴場の滑り止め、脱衣所の長椅子等できる範囲での安全に心がけている。	○	身体の状態に合わせその人が過ごしやすい環境の提供に心がけていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の能力に合わせた活動、混乱されないように職員と一緒に作業を行ったり、失敗し傷つかないような配慮を行い、自信をもって生活できる環境づくりを、模索しながら利用者様と一緒にやっている。	○	自信をもつ事は本人の自立にも繋がる事で、その人に合ったケアの実践を心がけていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	朝、夕に庭の散歩ができるように整備を行い、東屋を利用し景色を眺められる利用者の方もおられる。	○	庭の散歩には職員も同行し一緒に季節の花や木を眺められる環境整備に努めたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

※ 毎日の買い物や、利用者様が希望する場所へのドライブ、訪問には努力している。

又、毎日の食事は、食材を選ぶ、誕生会等、季節の物を取り入れ希望食を入れている事。

※ 自分がほしい衣類等の買い物にも、時間を2～3時間取り、3～4人一緒に外出している。

※ 家族と一緒に家族旅行も楽しみの一つで毎日のように旅行の日を聞かれるこ方もおられ、年に1回ではあるが、日帰り旅行を行っている。今年は11月11日の予定です。